

令和2年度 第1回 沖縄県がん診療連携協議会議事要旨

日 時	令和2年5月8日(金)	14:00~15:30
場 所	WEB会議/議長	琉球大学医学部 管理棟2階 小会議室
構 成 員	29名	(欠席者8名)
1号委員	(琉大病院長)	大屋 祐輔
2号委員	(県立中部病院長)	玉城 和光
	(那覇市立病院長)	外間 浩(代理) 宮里 浩
3号委員	(県立宮古病院長)	本永 英治
	(県立八重山病院長)	篠崎 裕子(欠席)
	(北部地区医師会病院長)	諸喜田 林(欠席)
4号委員	(沖縄県医師会長)	安里 哲好
5号委員	(沖縄県歯科医師会長)	真境名 勉(欠席)
6号委員	(沖縄県薬剤師会長)	亀谷 浩昌
7号委員	(沖縄県看護協会会長)	仲座 明美(欠席)
8号委員	(沖縄県政策参与)	対象者なし(構成員外)
9号委員	(沖縄県保健医療部長)	大城 玲子(欠席)
10号委員	(琉大がんセンター長)	増田 昌人
11号委員	(琉大がんセンター運営委員会委員長)	青木 陽一
12号委員	(琉大医療福祉支援センター長)	平田 哲生
13号委員	(琉大薬剤部長)	中村 克徳
14号委員	(琉大看護部長)	大嶺 千代美
15号委員	(琉大事務部長)	鬼村 博幸
16号委員	(県立中部病院副病院長)	照屋 洋子
	(県立中部病院血液腫瘍内科部長)	朝倉 義崇
	(那覇市立病院外科統括科部長)	宮里 浩(欠席)
	(那覇市立病院外科部長)	友利 寛文
	(県立宮古病院外科部長)	松村 敏信
	(県立宮古病院副院長)	中山 幸子
17号委員	(県立八重山病院外科部長)	尾崎 信弘
	(県立八重山病院副院長)	平良 美江
	(北部地区医師会病院副院長)	柴山 順子(欠席)
	(北部地区医師会病院看護部長)	我如古 春美
18号委員	(沖縄県がん患者会連合会事務局長)	安里 香代子
	(ゆうかぎの会(離島圏におけるがん患者支援を考える会)会長)	真栄里 隆代(欠席)
	(サバイバーナースの会「ピアナース」代表)	上原 弘美
	(パンキャンジャパン沖縄アフィリエイト)	島袋 百代(欠席)
19号委員	(国際医療福祉大学大学院教授)	埴岡 健一
	(一般社団法人グループ・ネクサス理事長)	天野 慎介
	(琉球新報編集局次長・報道本部長)	島 洋子
20号委員	(琉大病院病理部長)	加留部 謙之輔
	(琉大病院小児科講師)	百名 伸之
	(那覇市立病院放射線科部長)	足立 源樹
陪 席 者	緩和ケア・在宅医療部会 (以下、Zoom傍聴申込) 琉球新報社 社会部 沖縄タイム社 ハートライフ病院	笹良 剛史

会議に先立ち、大屋委員長から、新型コロナウイルス感染防止策として、WEB会議での開催となったこと、報告事項については各自資料を確認いただくよう説明があった。また、増田委員(10号委員)から、当日配布資料について説明があった。

議事要旨・議事録・委員一覧

1. 令和2年度第1回沖縄県がん診療連携協議会幹事会議事要旨(4月13日開催)

増田委員から、資料1の第1回幹事会議事要旨(令和2年4月13日開催)の確認があった。

2. 令和元年度第4回沖縄県がん診療連携協議会議事要旨(2月7日開催)

増田委員から、資料2の第4回協議会議事要旨(令和2年2月7日開催)の確認があった。

3. 令和元年度4回沖縄県がん診療連携協議会議事録(2月7日開催)

増田委員から、資料3の第4回協議会議事録(令和2年2月7日開催)の確認があった。訂正等が必要な場合は、事務局へ申し出ることとした。

4. 協議会・幹事会委員一覧

増田委員から、資料4に基づき、部会委員の一部に変更について報告があった。また、大屋委員から、協議会の新委員の紹介があり、各委員(今回参加者)から挨拶があった。

有識者報告事項

1. 埴岡委員報告

埴岡委員(18号委員)から資料5に基づき、沖縄県がん対策推進計画の中間評価と指標データについて、前回からの続編としての報告があった。また、沖縄県のがん対策の現状のデータは追加・更新されているデータの確認、前回の本協議会からデータの定点観測、本協議会ベンチマーク部会との連動を意識した資料を作成したとの説明があった。今回は、WEB会議ということもあり、以下の指標データに絞り提案等がなされた。

① 部位別、都道府県別にまとめたデータ

例として、大腸がんの男性は特に重点チェック対象となる。また、罹患率が高い乳がんなどは今後、死亡率が高くなる恐れがある等、これらデータを定点観測して定期チェックし、必要に応じて対策を検討することが提案された。

② 部位別の病期、ステージ別の5年生存率と施設別をまとめたデータ

地域・施設別で比較することで、地域の均てん化、最適化を目指すための指標なるのではないかとの提案があった。

③ 医療圏別の抗がん剤使用量と構成をまとめたデータ

NDB-SCRの抗がん剤使用量及び構成のデータについて、沖縄県の定点観測チェックに有効活用できるのではないかとの提案があった。併せて、本協議会委員である各専門家による観測方法を検討してはどうかとの提案もなされた。

④ 医療圏別の疼痛管理薬使用量と構成をまとめたデータ

全国平均と比べ、沖縄県は疼痛管理薬の使用量が少ないとのデータとなっているとの報告があった。

本報告について、安里委員(4号委員)から、沖縄県の大腸がんの対応・改善策について、どのような指標が有効かとの質問があり、埴岡委員から、他県との比較等により有効であろう指標があれば提供したいとの回答があった。

また、埴岡委員から 今回報告した資料のうち、例として緩和ケアについて、沖縄の緩和ケアの疼痛管理薬の使用方法について、現場の感覚として、どのように感じるかとの質問があり、笹羅氏(傍聴者・緩和ケア・在宅医療部会長)及び増田委員から、以下のとおり発言があった。

笹良氏：今回の資料で取り上げている薬剤が麻薬性鎮痛薬1種類のため、単純比較は困難である。しかし、薬剤の使用量が全国の50%程度ということは、何かしら理由があるのか、疑問に感じた。

増田委員：薬剤に関しては、偏重があること、全体的に抗がん剤の使用が少ないように見受けられた。今後、臓器の専門家と確認していきたい。また、大腸がんについては、近日専門家会議を検討しているので、その際に構成員へ本資料を提供し、検討したい。

2. 天野委員報告

天野委員から資料6に基づき、天野委員の所属する患者団体を通じた要望活動2件について以下のとおり報告があった。

- ①全国がん患者団体連合会として、令和2年3月に厚生労働省に対して、電話等による処方せんの発行について一部の地域・医療機関において、がん患者を対象外としていることがあったため、是正を求めた。
- ②神奈川県がん患者団体連合会として、神奈川県庁に対して国の取り組みとは別に、県として独自にマスク等を確保する取り組みを求める要望を提出したところ、要望から1週間後に、神奈川県において拠点的な大学病院等にはサージカルマスクについては供給が開始された。

次に、全国がん患者団体連合会に、新型コロナウイルスに関連した不安として、3月頃までは感染するのではないかという不安の声、4月頃からは診療や検査や経過観察が延期になった、手術が延期になったという声、最近では失業、休職になったことでがん治療の継続が難しくなりそうだという意見が寄せられ、以下のとおりWEBでの緊急セミナー3回開催し、今後1回開催予定であるとの報告があった。

- ①4月20日に神奈川県の北里大学のがん診療センター長で副病院長の佐々木治一郎氏にオンラインで講演いただいた。
- ②4月24日に、東京大学医科学研究所の武藤香織氏に講演いただいた。
- ③5月4日に、大阪大学の平井啓氏に講演いただいた。
- ④5月10日に、神戸にあるしんじょう医院所属の新城医師と訪問看護ステーションあおいそらの塩川氏から、在宅医療の現状について講演いただく予定。

その他、血液がんの患者団体関連として、長野県の佐久医療センターの森勇一氏に講演いただいたとの報告があった。

3. 島委員報告

島委員(18号委員)から、報道機関としての医療現場の報道スタンス及び資料7に基づき、がんについて掲載した新聞記事の紹介があった。

4. その他

照屋委員(16号委員)から、新型コロナ感染対策におけるがん治療について、化学療法の際、優先的に採血するカードを作成し、血液検査データを待つ時間の特別待合室を用意し、一般の外来患者と化学療法を受けるがんの患者のエリアを分ける取り組みを行っているとの報告があった。

審議事項

1. 沖縄県がん診療連携協議会 要綱の改正について
2. 沖縄県がん診療連携協議会幹事会 運営に関する申し合わせの改正について
3. 沖縄県がん診療連携協議会 部会申し合わせの改正について

増田委員から、資料8、資料9、資料10に基づき、琉球大学病院の名称変更及び県立宮古病院が地域がん診療病院となったことから、沖縄県がん診療連携協議会要項、沖縄県がん診療連携協議会幹事会 運営に関する申し合わせ、沖縄県がん診療連携協議会部会申し合わせの改正についての提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

4. 「拠点病院等看護部長会議」の新設について

大嶺委員から資料1-1に基づき、「拠点病院等看護部長会議」の新設について提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

5. がんゲノムについて

増田委員から資料1-2に基づき、がんゲノム医療についての説明があった。

また、資料1-2-2の以下3点について確認があり、審議の結果、3点とも原案通り承認された。

- (1) 患者さんの集中を防ぐために段階的に紹介を受け入れる体制づくりをする。
- (2) 紹介元の医療機関における紹介医師を一人に絞る（施設代表医師制度）
- (3) がんゲノム医療とがん遺伝子パネル検査に関する院内研修会の開催を患者紹介前に行う。

6. がん患者さんの生殖機能温存について

百名委員（20号委員）から資料1-3に基づき、がん患者さんの生殖機能温存について説明があった。

また、資料1-3-2の以下4点について確認があり、審議の結果、4点とも原案通り承認された。

- (1) 沖縄県の拠点病院および診療病院において、対象患者すべてに、生殖機能の温存に関する説明を行う。
- (2) 「がん患者さんのための妊孕性温存療法に関する説明書」を拠点病院および診療病院共用文書として承認し、基本的に本文書を用いて説明する。
- (3) 9月末までに「妊孕性温存に関する担当医」を各病院で決定し、琉大病院の『妊孕性温存療法についての専門外来』へ積極的に紹介する。
- (4) がんに関わる全ての医師が、院内研修会を受けることを義務付ける。

7. 令和2年度の協議会・幹事会の開催日時について

増田委員から資料1-4に基づき、令和2年度の協議会・幹事会の開催日時について説明があり、多くの医師の参加する学会と日程が重複していることから、第3回協議会の開催日程を、11月6日（金）から、11月13日（金）へ変更したいとの提案があり、承認された。

報告事項

部会報告事項

WEB会議のため、今回は割愛することとなった。

以上